



北海道帯広農業高等学校 森林科学科

定員 40 名

本校は1920年(大正9年)に十勝農学校として開校し、2020年には創立100周年を迎えます。現在は森林科学科を含め5つの学科に約600名の生徒が学んでおり、最近では本校卒業生の著作であるマンガ「銀の匙 Silver Spoon」のモデルとして全国的に有名になりました。森林科学科は1943年に前身の林業科が設置され、これまで2,766名の卒業生を地域の林業・木材産業を担う人材として輩出してきました。

本校の学校林は学校の敷地内にあり、普段の授業の中で歩いて実習に行くことができます。そのため、入学段階ではあまり森林・林業に興味のなかった生徒たちも、日々、森に関わることで次第に関心を持つようになり、3年生になる頃には研究班活動など生徒たちの自主的な取組が活発に行われるようになります。また、学校林を用いた小学生等との地域交流、JICA研修員や中国の高校生との国際交流が盛んに行われており、自分たちが学んできたことを発信する機会を多く持つことで、森林・林業について学ぶことの意義を再認識しています。卒業後の進路としては、就職希望者の約7～8割(女子生徒は4～5割)が公務員を含めた林業・木材産業の道へと進んでいます。生徒たちは地域の事業者や官公庁と連携した見学実習(林業技術現場体験学習など)、資格取得を通して、実際の林業現場を知り、視野を広げ、自らの進路選択を行っています。

生徒の声 森林科学科2年

入学したときは林業について何も知らず、知識や技術を身につけられるのかと不安に思いながらのスタートでした。しかし、教室での授業、学校林で測量や植栽、下刈り、除伐などの実習をとおして出来ることが増えてきたと感じています。2年生になってからは、チェーンソーや刈り払い機、小型車両の資格を取得したり、インターンシップや地域のボランティア活動にも参加し、自分の力にしてきました。3年生では、研究班活動に力を入れ、先輩たちに続き成果を出せるように頑張りたいと思います。卒業後は林業関係の公務員になりたいと考えています。そのために、これからもいろいろなことにチャレンジし、森林や林業について理解を深めていきたいと思っています。



学校林での冬のかんじき実習



小学生との森林交流会



JICA 研修員との交流



中国の高校生との交流



企業での木材加工実習



林業技術現場体験学習



茨城県立大子清流高等学校 森林科学科(3年)・農林科学科(森林科学コース)(1、2年) 定員 40名

本校の森林科学科(3年)農林科学科(森林科学コース)(1・2年)は県内で唯一森林について学べる学科で、平成20年度から全国募集を行っています。

森林科学や森林経営、測量など森林・林業・木材産業に関する科目の学習を通じ、公務員や民間企業への就職、さらには4年制大学への進学など、将来、森林・林業の分野を志す生徒の育成を目指しています。

本校の特色ある科目として、「八溝(茨城県最高峰の八溝山)の恵み」を設定し、地域の漆や八溝材の有効活用など、地域に根ざした取組を行っています。

また、実学の観点から、2年生からの「課題研究」や3年生での「科学研究」では、生徒それぞれが課題を設定し、地元木材を利用したイスやテーブルの製作、本校で栽培しているきのこの原木の廃材を利用したオオクワガタの養殖、竹炭の製造、演習林での下刈り・伐木作業など、より実践的な授業を行っています。

さらに、世界の林業に目を向けた林業専攻高校生国際交流研修(インドネシア)、高性能林業機械・ドローン講習、森の聞き書き甲子園や森林・林業技術交流発表会(関東森林管理局)などへの出場など、森林科学について深く学ぶとともに、資格取得を含めた多くの経験や体験ができることが最大の魅力です。

生徒の声 森林科学科3年

全国募集により県外から大子清流高校森林科学科に入学し、森林・林業について多くの事を学んでいます。座学だけでなく測量実習や下刈り実習など、より将来を意識した学習に取り組んでいます。毎年冬には後継者育成事業として、林業に従事している方々の指導のもと人工林の除伐作業を行います。現場で培われたプロの技術を教わることは、貴重な経験であり、大きな財産となります。

また、チェーンソーや刈り払い機、フォークリフトなど様々な資格を取得することができました。

春からは大学に進学します。森林や林業をさらに深く学び、日本の林業を支えられるように頑張りたいと思います。



きのこ植菌実習



漆塗り体験



伐木作業



国際交流研修



高性能林業機械の操作体験



ドローン講習会